祝・開館5周年

季刊

弥生の出雲王に出会える

出雲弥生の森博物館だより

IZUMO YAYOINOMORI MUSEUM

第20号 (2016年1月)

★出雲弥生の森博物館 5周年記念特別展

『出雲王 登場 ―とことん解剖 西谷3号墓―』

3月5日(土)～5月9日(月)

※ 5月3日(火・祝)は開館
5月6日(金)休館

観覧料 大人 500円
高校生以下 無料

弥生時代後期後葉(2世紀後半)、ここ出雲平野に「王」が登場します。この頃の出雲平野や安来平野には40m前後の規模をもつ大きなお墓が造られます。それらの中で初代の出雲王の墓と呼ばれているのは、出雲市大津町の西谷3号墓です。今回の展示では、この王墓をとことん解剖し、出雲王の実像に迫ります。

【展示概要と主な展示品】

1 最先端の埋葬施設

西谷3号墓では、遺体を木棺と木椁(もっかく)に納めた埋葬施設が3つありました。木椁は、遺体を丁寧に埋葬する工夫で、当時の東アジアでは身分の高い人の墓に採用されています。

朝鮮半島北部(楽浪郡(らくろうぐん)・漢帝国(かんていこく)の領土)の木椁は、木棺を角材で囲んで積んだ重厚なものです。一方、西谷3号墓のものは、木棺を板材で囲んだ簡素な造りです。木椁は、朝鮮半島から伝わったと考えられますが、細かい構造までは伝わらなかったのでしょう。

●楽浪郡の王盱(おうく)墓木椁1／10模型

2 舶来品(はくらいひん)が好きな出雲王

西谷3号墓の副葬品は、ガラスや石で作られた装身具と鉄剣で、そのほとんどが舶来品です。特にガラス製品の多くは楽浪郡から輸入されたと推察されます。楽浪郡の多彩な色や形のガラスを見て、西谷3号墓のガラスと比べてみてください。

●楽浪郡出土ガラス製装身具

3 出雲と吉備の王墓

西谷3号墓とほぼ同じ頃に吉備でも王墓が造られました。楯築(たてつき)墳丘墓は、全国最大の墳丘をもち、墓上で盛大な儀礼が行われています。これら二つの王墓を比較し、それぞれの特質を示します。内容は、展示室でご覧ください。

●楯築墳丘墓出土鉄剣・装身具・人形土製品(ひとがたどせいひん)・弧帯石(こたいせき)・円礫(えんれき)・鉄器

(●は主な展示)

●関連講演会

【聴講無料】

1月30日(土)
弥生ブロンズ
ネットワークリレー講座
「西谷墳墓群の四隅突出型墳丘墓」
【講師】坂本 豊治(当館)

3月5日(土)
「西谷墳墓群の
ガラス製品と古代出雲」
【講師】小寺 智津子氏
(日本学術振興会特別研究員)

3月21日(月・祝)
「吉備と出雲の王墓」
【講師】春成 秀爾氏
(国立歴史民俗博物館名誉教授)

※いずれも14時～16時
事前申し込み必要

●ギャラリートーク

3月6日(日)14時～15時
5月7日(土)14時～15時
【講師】坂本 豊治(当館)

西谷3号墓の装身具
(島根大学考古学研究室蔵)

★特集　研究ノート⑭　特別展
西谷3号墓の土器

発掘終了後23年。待望の西谷3号墓の報告書が昨年9月に刊行されました。私は、この報告書で土器を担当しましたので、その成果の一部を紹介します。

西谷3号墓の墳頂部からは、300個を超える多量の土器が出土しています。これほどの土器がお墓から出土した例は日本の弥生時代にはなく、かなり特異な状況と言えます。

多量の土器はまとまって出土したわけではなく、8つある埋葬施設の中で、特に大きく、墳墓の中央に位置する第4主体とその東にある第1主体から出土しました。遺体の埋葬後、墓上で飲食儀礼が行なわれます。土器の中には、お酒や食べ物が入っていたことでしょう。その後、遺体の真上あたりに、使った土器を壊さずに並べ、葬儀は終了します。

第4主体は、8つある埋葬施設の中で、最初に埋葬が行われました。これは、土器の特徴や墓穴の重さなりからわかったことです。

第4主体から出土した土器は、223個以上です。これらの土器には、地元出雲（山陰系土器・写真①）に加え、山陰東端から北陸西端（丹越系土器・写真②）、吉備（吉備系土器・写真③）の3地域のものがありました。葬儀には、これら3地域の人が参列したのでしょう。

土器は、壺とそれを載せる台が基本となり、山陰系土器49セット、丹越系土器18セット、吉備系土器18セットありました。1セットを1人で飲食したとすると、100人近くの人が葬儀に参列したことがわかります。

一方、第4主体の隣にある第1主体からは、110個以上の土器が出土しています。内訳は、山陰系土器26セット、丹越系土器16セットで、葬儀には2地域の人たち、約50人が、参列したと推定できます。

以上のことから、第1主体の倍の人数が第4主体の葬儀に参列し、最も盛大な葬儀が催行されたことがわかります。つまり、第4主体に初代の出雲王が埋葬されたと言えるのです。

（坂本豊治）

①第4主体の山陰系土器

②第4主体の丹越系土器

③第4主体の吉備系土器

特異な土器

第1主体から2～3㎝ほどの土器が3点出土しています（写真④）。これは、蓋あるいはサカズキの形をした低脚坏（山陰系土器）のミニチュア品です。小さすぎて、実用品としては使えません。

このようなミニチュア品は出雲の他の墓ではみつかっていない、特異な土器です。特別展で展示しますので、ぜひご覧ください。

（坂本豊治）

④第1主体のミニチュア品

写真はいずれも西谷3号墓（島根大学考古学研究室蔵）

★文化財保護のマスタープラン『出雲市歴史文化基本構想』の策定

出雲市には、国宝の出雲大社本殿や国史跡の西谷墳墓群、荒神谷遺跡など、数多くの指定文化財が残されています。県や市の指定のものを含めるとその数は256件。一つひとつが出雲の歴史文化を物語る私たちの貴重な宝です。

しかし、指定されたものばかりが文化財というわけではありません。身の回りを見渡すと、道端にはお地蔵さんや偉人の顕彰碑があったり、大岩や樹木が大切に祀られていたり、古い町なみや風情のある景観が残っていたりと、地域の歴史文化を醸し出す多種多様なモノが目に入ってきます。

これらは、地域の人びとが古くから大切に守り継いできたもので、やはり、指定文化財と同様にかけがえのない文化財といえます。

このような視点で見つめ直すと、文化財はそのもの自体が持つ歴史文化的な価値もさることながら、地域、人びと、他の文化財などとの関係の中にあって、より一層その輝きを増します。そのため、文化財の適切な保護や積極的な活用を図るためには、その周辺環境までを総合的に把握してプランを練る必要があります。

出雲市では、このプランを「出雲市歴史文化基本構想」と名付け、来年度の策定を目指して、現在、作業を進めています。今年度は市内の文化財を総合的に把握するために、次の基礎調査を始めました。

・文化財に対するアンケート調査
・文化財の地域別聞き取り調査
・神社建造物の調査
・寺院所有の美術工芸品調査
・旧家所有の文書調査
・築地松の実態調査　ほか

文化財保護のマスタープランとなるこの基本構想の実現により、市内の文化財の価値が広く再認識され、私たちの宝として未来に伝えられることは、出雲ブランドの推進に大きく貢献すると考えています。

（三原一将）

地域の方々の協力を得ながら進める「文化財の地域別聞き取り調査」の様子

★姫神シンポジウム報告

10月25日(日)、ビッグハート出雲で「～女性たちが発信する古代出雲の魅力～」と題し、県内で活躍する5つの女性団体をお招きし、出雲の「歴史文化遺産」の魅力について女性の目線で語るシンポジウムを開催しました。

会場では、女性には馴じみにくいと感じる文化財について、いろいろな角度から捉えた、女性ならではの魅力を伝えるアイデアが出ました。

「出雲弥生の森博物館にあった青いガラスのまが玉などをジュエリーカタログのようにして、発信したら女性の心をくすぐるのでは？」ほかにも多数意見をいただきました。これらの意見を参考に、古代出雲や出雲の歴史文化をテーマとした商品開発など、今後も積極的に取り組んでまいります。また、わかりやすい情報発信に努めていきます。

★博物館アテンダントコーナー「ガラスの勾玉」

こんにちは！

博物館のアテンダントです❀

私達アテンダントが、お客様に必ず見て頂きたいと思う展示物があります。それは1800年の時を超え、長い眠りから目覚めた「ガラスの勾玉」です。

博物館前史跡公園の、よすみ「西谷3号墓」にある女王様の木棺から見つかりました。女王様の木棺からはたくさんのガラスや石でできたアクセサリーが発見され、その中に青く輝く二つのガラスの勾玉がありました。発見当時、黒ずんだ石にみえたようですが、土を落とし日にかざしてみるとコバルトブルーのとても美しい勾玉でした。

今もなお、古の輝きを放ち続ける唯一無二の「ガラスの勾玉」。当館でしか見ることのできないものです。常設展示室の入口を入ってすぐの展示ケースに、『実物』を展示しています。とても神秘的で美しい「ガラスの勾玉」です。ご来館の際には、ぜひ、ご覧になってください。

★ギャラリー展
「西谷古墓と長者原廃寺」
2月3日(水)～6月6日(月)

「西谷の丘」に墳墓が造られ始めたのは弥生時代後期ですが、墓域として最後に営まれたのが西谷古墓です。須恵器の甕に火葬した骨を封入する火葬墓で、土器の形から奈良時代後半から平安時代初めのものと考えられます。「西谷の丘」がある出雲平野南部は、出雲国でも火葬墓が特に集中する地域であることが特徴です。石製の容器に骨を納める火葬墓が多く、上野(群馬県)、駿河東部・伊豆北部(静岡県)など東日本の火葬墓とよく似た形をしています。

また、西谷古墓と同じ時期に「西谷の丘」から西へ約五〇〇mの丘陵上に〝寺院〟(長者原廃寺)が建てられました。ここで見つかった瓦の紋様は朝鮮の慶州の瓦と似ていると言われています。

軒丸瓦

「西谷の丘」周辺の火葬墓や瓦は、古代の人びとの知られざる交流を物語っているのではないでしょうか。

(髙橋　周)

★講座のご案内

▼館長講座
発掘調査のお宝動画公開！

1月23日(土)
「西谷3号墓」(出雲市)
～島大チーム出雲の王墓に挑む～
【講師】渡邊 貞幸(当館館長)

▼文化財保護審議会委員講座

2月6日(土)
「弁慶伝説と鰐淵寺」
【講師】山﨑 裕二氏
(いづも財団事務局次長)

2月27日(土)
「陶磁器が語る中世寺院
－鰐淵寺と大山寺を中心として－」
【講師】西尾 克己氏
(大田市教育委員会
石見銀山課特任講師)

3月12日(土)
「鰐淵寺の文化財
－修験の聖地の神仏習合－」
【講師】的野 克之氏
(古代出雲歴史博物館学芸部長)

右の講座はいずれも
●時　間　14時～16時
●受講料　300円
●定　員　80名
※事前にお申込みください。

★館長コラム⑯

遺跡が発見されるきっかけはいろいろですが、古墳の場合は「夢のお告げで」と伝えられるケースがいくつもあります。

松江の岡田山一号墳は、当時(大正四年)の新聞によると次のようないきさつで発見されました。

ある夜、土地所有者の夢枕に白髪の老人が立ち、「お前が所有する松林に古墳があるから掘ってくれ」と告げました。その後も同じ夢を見るので、「ものは試しだ、掘ってみよう」と、鍬を担いで松林に入り、「夢さとしをするほどの親切心があるなら、詳しい場所を教えてくれても良さそうなものだ。夢の中の老人は俺より年をとっていたから、そこまで気が回らなかったのだろう」などと思いながらあちこち鍬を打ち込み、石棺を掘り当てたのだそうです。

安来市の造山一号墳では、昭和十一年の元旦と三日の朝に土地所有者の夢に現れた老人のお告げで発掘が行われたといいます。当事者によれば、それは「浅黄の洋服にもあらず和服にもあらざる異様の服装」をした、腰に長刀を帯びた八十歳ないし百歳の長いヒゲの老人で、「造山に宝物が埋めてあるから掘り出して祭ってくれ。お前を見込んで頼むのだ」と告げたということです。

これらとは少し違いますが、私にも不思議な体験があります。出雲市馬木町にある刈山五号墳の調査に参加したとき、前の晩に見た夢の通りに、石棺の脇から鉄刀を発見したのです。私には予知能力がある？と喜んだのですが、その後は二度とそういうことはありませんでした。

(渡邊貞幸)

(発行)出雲弥生の森博物館 2016年1月
〒693-0011　島根県出雲市大津町2760
(TEL)0853-25-1841　(FAX)0853-21-6617
(e-mail)yayoi@city.izumo.shimane.jp
http://www.city.izumo.shimane.jp/yayoinomori
●入館料／無料
●開館時間／9:00～17:00(入館16:30まで)
●休館日／火曜日(祝日の場合は翌平日)・年末年始